

2023年9月から日本大学医学部附属板橋病院 循環器内科で
僧帽弁閉鎖不全症に対する低侵襲治療である
経皮的僧帽弁クリップ術が始まりました。

先生方のお力に少しでお役に立ちたいと考えております。
下記 Q&A を参考に当院への紹介をご検討いただくと幸いです。

Q. どのような患者が治療の対象？

A. 息切れを認めるが、高齢であったり、肺疾患などの並存病で手術が難しい患者が対象になります。

Q. どのタイミングで紹介すればいい？

A. 息切れを認め、心尖部に心雑音を認める場合、僧帽弁閉鎖不全症の可能性が高いです。ぜひ紹介をご検討いただくと幸いです。
心雑音を認めない場合でも息切れ外来では心疾患だけでなく、呼吸器疾患の精査を行います。

Q. すぐ経皮的僧帽弁クリップ術で治療するの？

A. ガイドラインに則った薬物治療を最初に行います。薬物調整を行っても症状が残存する時に経皮的僧帽弁クリップ術の治療を行います。

Q. 経皮的僧帽弁クリップ術は何日ぐらい入院が必要？

A. 治療後の経過観察を含め約1週間の入院となります。

Q. 経皮的僧帽弁クリップ術後のフォローはどうなるの？

A. 退院後は先生方の外来で薬物治療を継続して頂きます。並行して当院でも定期的なフォローをさせていただきます。

紹介先外来担当(循環器内科)

息切れ/弁膜症外来

担当 齋藤 佑記 火曜日/土曜日

インターベンション治療関連外来

担当 須藤 晃正 火曜日/第1、3木曜

狭心症、経皮的僧帽弁クリップ術、経皮的
左心耳閉鎖術、閉塞性動脈硬化症など

日本大学医学部附属板橋病院

住所 〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町 30-1

代表番号 03-3972-8111

2023年12月を目途に

日本大学医学部附属板橋病院 循環器内科では
出血リスクおよび脳梗塞リスクの高い心房細動症例に対する
低侵襲治療である**経皮的左心耳閉鎖術**の準備をしています。

先生方のお力に少しでもお役に立ちたいと考えております。

下記 Q & A を参考に当院への紹介をご検討いただけると幸いです。

Q. どのような患者が治療の対象？

A. 出血リスク(複数回の転倒による外傷既往、輸血を伴う出血の既往、その他、貧血/腎機能/肝機能/NSAIDs服用/抗血小板薬服用などによる総合的判断)を伴い脳梗塞リスクが高い(75歳以上、糖尿病、高血圧、心不全既往のいずれか 2 個該当もしくは脳梗塞既往)の患者が対象になります。

Q. どのタイミングで紹介すればいい？

A. 抗凝固療法を行っており、経過中に出血で困っている際は紹介いただけると幸いです。

Q. すぐに経皮的左心耳閉鎖術で治療するの？

A. 左心耳の形態や血栓の有無を経食道心エコー検査にて評価します。左心耳血栓を認める場合は、血栓が消失してから行います。形態学的に不向きの場合、心臓外科による胸腔鏡下左心耳閉鎖術についてご案内いたします。

Q. 経皮的左心耳閉鎖術は何日ぐらい入院が必要？

A. 治療後の経過観察を含め約 1 週間の入院となります。

Q. 経皮的左心耳閉鎖術後の抗血栓療法はどのような？

A. 一時的に抗凝固療法、抗血小板療法の併用が推奨されております。その後、抗血小板薬 1 剤となります。

Q. 心房細動自体の治療についても相談できるの？

A. 心房細動に対するカテーテル治療や薬物治療についても当院の不整脈外来で対応させていただきます。下記を参考に紹介いただけると幸いです。

紹介先外来担当(循環器内科)

不整脈外来

担当 奥村 恭男 火曜日/金曜日

永嶋 孝一 水曜日/木曜日

黒川 早矢香 火曜日/水曜日

インターベンション治療関連外来

担当 須藤 晃正 火曜日/第 1、3 木曜日

狭心症、経皮的僧帽弁クリップ術、経皮的左心耳閉鎖術、閉塞性動脈硬化症など

日本大学医学部附属板橋病院

住所 〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町 30-1

代表番号 03-3972-8111